

「新年・鷲のように翼を張って上る」

イザヤ書 40章26～31節

聖学院院長・女子聖学院中学校高等学校校長 山口 博

A.D.2022年の新しい年が与えられました。[Anno Domini]とは「主の年」の意味になります。主なる神様がお与えになったこの年はどのような日々が待っているのでしょうか。新型コロナウイルスは変異を続け未だに世界中を席卷しています。これだけ長期化するとストレスはボディブローのように身にこたえてきます。新年なのに世界中がどことなく疲れている。そんな印象を持つ人は少なくないのではないでしょうか。

「人生を、あるがままに受け取りなさい。どんなものをも恐れてはならない。そうすれば、一切のものがよくなるであろう」。これは有名な英国の宰相でありましたウインストン・チャーチルの座右の言葉であると言われています。いかにも彼らしい勇気に満ちた言葉です。しかし、ある本によると、彼は自分の体を走ってくる車にぶつけて何もかも終わりにしてしまいたいような誘惑に襲われたのだそうです。あの勇気に満ちたチャーチルの生涯にも心底疲れた時があったことが分かります。

ところで、日曜日をキリスト教では「主日」あるいは「聖日」と言いますが、旧約聖書以来「安息日」とも言われています。これはまことに不思議なことであると同時に知恵の深いことだと思います。なぜなら私どもはしばしば疲れ、安息が必要だからです。本日与えられたイザヤ書 40 章 30 節には、「若者も倦み、疲れ、勇士もつまずき倒れ」と綴られています。いつの時代も疲れるのです。なぜ疲れるのでしょうか。医学的な意味ではありません。若い人が疲れる、壮年の人の魂が疲れることを聖書は力説しています。そこが問題です。

人間が最も疲れることは何でしょうか。コロナ禍も疲れるに違いありません。人間関係に疲れることもあるでしょう。骨の髄まで疲れることがあるのではないのでしょうか。イザヤのこの部分は、強国バビロンに苦しめられていると想像できます。信仰に確信が持てなくなり神との間に平和を持つことができなくなったようです。スイスの精神科医、ポール・トゥルニエは「プライオリティー（優先順位）が崩れると精神的に病む原因になる」と言います。

では疲れを癒すものは何でしょうか。大事なことは 40:31 の「主に望みをおく人は新たな力を得、鷲のように翼を張って上る。走っても弱ることなく、歩いても疲れぬ」と記されていることです。そして 28 節で記されているように造り主であり救い主である主を待ち望むのです。人間は自分の力で生まれた者はなく、また死ぬ者もないからです。

最後に、主を待ち望むことの確信を与えるのは何でしょうか。それはキリストの十字架の救いであると聖書は力説して止みません。31 節には、「鷲のように翼を張って上る」と記されています。誰でも望むところです。しかし、何のためでしょうか。詩編 118 編 17 節に「死ぬことなく、生き長らえて 主の御業を語り伝えよう」とあります。この一年も互いに神の恵みを伝える者でありたいと願うのです。

祈ります。

主イエス・キリストの父なる神様 主の年 2022 年を与えられ感謝いたします。混沌とした世界であり、疲れを覚えるわたくしどもですが、願わくは聖書の御言葉に導かれ、勇躍してこの年を歩み続けることができますように。

主の御名によって祈ります。 アーメン

2022 年 1 月 7 日 聖学院大学 全学礼拝